

こんにちは
健保組合です!

事業所訪問 「房州通運(株)」 の巻



右から本間社長、島野課長、池谷常務

今回で第六回目を迎えた事業所訪問、今回は千葉県南端、館山市に所在する房州通運株式会社を訪ねました。

国道一六号を一路南へ車を走らせ京葉工業地帯を過ぎいよいよ県南に入ると、右手に内房特有の穏やかな様相の海が、視界に飛び込んできました。

六月八日、日本各地で梅雨入りの声が届いてきています。この日、千葉県はいにくの小雨模様でした。青空の下で見る内房のすばらしさを期待した私たちには少々残念でした。



についての話題に移りました。房州通運は、安全管理優良事業場の表彰を、監督署の関係団体から受賞しておられることからうかがえるとおあり、安全衛生の面にも傾注されています。安全衛生管理委員会を設け、健康管理事業を含めた検討・事業策定機関として、機能しているそうです。かつて、六年間無事故無災害の記録更新中に、ふとしたことで災害が発生し、記録がとれたというエピソードを、池谷常務がたいへん悔しそくに話されました。私たちは、記録のことではなく、業務中に起こった事故にたいしての責任感からのお言葉

が、取材に向かう緊張もあって、それでも満足しているのです。道中はたいへん道路が渋滞し、約束の時間に到着することができませんでした(申し訳ございませんでした)。道で行き交う車のなかに房州通運の車両を多く見かけるようになり、目的地に近いことを感じながら、やつの思いでめざす事業所に到着しました。

たいへんお待ちせしたにもかかわらず「こんにちは健保組合です!」とドアを開けると、組合の健康管理委員をお願いしている島野課長が笑顔で応対してくださり、二階の応接室に案内されました。房州通運の社屋は、館山の駅に隣接しており静かな町並みが窓越しに見えます。「花と海の街」のイメージどおり、人にも町並みにもおらかさが感じられました。

この日は島野課長と池谷常務に應對していただきました。池谷常務は社会保険制度に精通し、社保行政にたいへん貢献していらっしゃいます。話題は、まず健康保険組合設立の経緯から、始まりました。設立にあたって氏は、いわゆる経営者という立場ではなく、社会保険の制度を熟

知した見地から忌憚のない意見をもって臨まれたそうです。以前は、給与形態があまり明確ではないこの業界において、標準報酬をとらえることの困難さや、制度に対する認識の低さ等、かなり専門的な視野で話されました。

このような確かな考えをお持ちの方々に支えられて、健康保険組合が今日順調に推移していることをあらためて痛感し、感謝の気持ちでいっぱいになるのです。

しばらくして、本間社長が入室されました。社長は、千葉県トラック協会の房州支部の支部長をされています。また、支部活動の一環として、健康保険組合・厚生年金基金の加入についてもご尽力をいただいています。「会員に加入の指導はしているが、なかなか好返事が得られない」とのことでした。いろいろとネックになっていることなどについても話され、また、「事務局にぜひ具体的な内容の説明してほしい」と池谷常務からの助言もいただきました。私たちは、微力ながらもこうしたご苦勞に報いていきたいと思うのでした。

続いて、事業所の健康・安全管理

と受け止め、氏のお人柄の大きさに敬服するのです。

最後に、現在、健保を担当されている島野課長より、家庭常備薬の内容や補助金の申請などについての意見を頂戴し、取材を終えました。

蛇足ですが、応接室には現天皇陛下の皇太子のころの写真が飾られていました。私たちは、どうしてもエピソードを聞きたくて池谷常務にたずねたところ、かつて、当時の皇太子が館山を訪れた際、葡萄園に現社長のお父上(当時館山市長)が先導されたときの写真だそうです(まあ、びっくり!)

こうして、無事取材を終了し、貴重な時間を割いてお付き合いくださった本間社長をはじめ役員の方々に礼を述べて、房州通運をあとにしました。皆さんご協力ありがとうございました。

帰路の車からは取材に向かったときには別段気にとめなかった「房州びわ」の露店が目につきました。どの店にも、道ゆく車が足を止めています。温暖な気候が生み出す名産品に舌鼓を打つことでしょう。

すっかり雨も上がり、内湾に浮かぶ小さな島々も、はっきり姿を現わしていました。